

本願寺 御歴代門主シリーズ

その十六

本願寺第十七代宗主

法如(ほうによ)上人(二七〇七年〜一七八九年)

法如上人は本願寺第十三代良如(りょうによ)上人の第十子播州龜山(姫路市)本徳寺の寂円師の二男として一七〇七(宝永四)年に誕生されました。

その後、河内(大阪八尾)顕証寺の住持を経て、一七四三(寛保三)年三十七歳のとき本願寺の法灯を継承されました。

法如上人の継職当時の阿弥陀堂は、一六一七(元和三年)の火災の後に再建されたもので、本山としては規模が小さく、一七六〇(宝暦十年)に宗祖五〇〇回忌を迎えるにあたり、法如上人は幕府の質素節約の奨励に配慮しつつ、十二年の歳月をかけて新たな本堂を建立され、これが現在の阿弥陀堂であります。なお、旧本堂は移築され現在の西山別院の本堂となっています。

また、法如上人は在職中に「明和の法論」の解決を図られました。

この起(こ)りは、能化法霖(のうけほうりん)が真宗本尊の論拠を『観経』におくことに対して、播州真浄寺智暹(ちせん)は『大経』に依るとし、法霖の説を異義としたことに始まりました。論争には諸般の政争的事情もからみ大紛争となっていきました。

この状況に法如上人は、本山において二回の対論を試みられたほか、問題となった出版物の停止などの諸策を講じられました。



本願寺第十七代宗主 法如(ほうによ)上人

さらに当時の宗派名は「一向宗・本願寺宗・門徒宗」など諸国や地域によって異なつた名称が用いられており、上人は宗派名を「浄土真宗」とするよう幕府に公称を願ひ出しました。

結局幕府は「宗名は従来通り」として決裁がなされませんでした。この宗派名統一に際しては築地御坊(築地本願寺)を中心に、江戸の本願寺派僧侶が一丸となりました。

このほか、諸国御坊の発展・再興に努められ、一七八四(天明四年)の江戸大火によって焼失した築地御坊とその寺内寺院五十八所の復興のため、関東・東北十三州の僧俗に消息を下して協力をよびかけられました。

また、法如上人は書道の達人で、本山の滴翠園(てきすいえん)内には、法如上人の筆塚があります。

法如上人の在職期間は四十七年に及ぶ長期でありましたが、一七八九(寛政元年)十月二十四日(旧暦)、八十三歳で浄土に往生されました。院号を信慧(しんえ)院と申し上げます。

※参考文献 福岡光起著

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「初参式」(善教寺本堂)

五月二十五日(日) 午前九時半〜

\* 仏教婦人会主催行事

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)

六月 十六日(月) 午後一時半〜

\* 毎月十六日に本堂において

勤めております。

「安居会(夏の法要)」(善教寺本堂)

六月二十一日(土) 朝席：午前十時〜

昼席：午後一時半〜

講師 山村圭司師(安佐北区深川 善徳寺)

\* 送迎マイクロバスを運行します。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール [zenkyo@otera.or.jp](mailto:zenkyo@otera.or.jp)